

看護学科カリキュラム(2006年度入学生用)

* : 選択科目 [] 内の数字は単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	
専 門 の 職 能 の 教 育	専門基礎	病原微生物学[2] 病態生理学[2] 治療学総論[1] 生活健康科学[2]	疾病治療論I(呼吸・循環・腎泌尿器系)[2] 疾病治療論II(骨格・筋・神経・内分泌系)[2] 疾病治療論III(感覚・免疫・消化器系)[2] 社会福祉論[2]			
	実践基礎	看護理論概論[2] 看護対象論概論[2] 基礎看護技術I(生活援助技術)[1] 基礎看護技術II(治療に伴う援助技術)[1] 基礎看護実習I(看護基礎実習)[1]	基礎看護技術III(看護過程の展開)[1] 基礎看護実習II(生活援助実習)[2] 家族看護論[1]			
		地域看護学概論[2] 地域看護活動論I(地域看護方法論)[2]	地域看護活動論II(地域看護学演習)[2] 地域看護活動論III(地域看護活動論)[2] 保健医療福祉行政学[2] 疫学・保健統計論[2]		地域看護学実習[4]	
			精神機能論[1] 精神保健論[1] 精神看護援助論[1]		精神看護学実習[2]	
		機能看護学I(セルフマネジメント)[1]	機能看護学II(キャリアマネジメント)[1] 看護情報学[1] 看護情報学演習[1]	機能看護学III(組織とマネジメント)[1]	機能看護学IV(トップマネジメント)[1]	
				看護研究概論[1] 看護研究方法[1]		
	実践応用	小児看護対象論[1] 母性看護対象論[1] 成人看護対象論[1] 老年看護対象論[1]	小児看護援助論I(健康生活援助論)[1] 小児看護援助論II(臨床看護援助論)[1] 母性看護援助論I(健康生活援助論)[1] 母性看護援助論II(臨床看護援助論)[1] 臨床看護援助論I(セルフケア論)[1] 臨床看護援助論II(周手術期看護論)[1] 臨床看護援助論III(クリティカルケア論)[1] 臨床看護援助論IV(リハビリテーション看護論)[1] 臨床看護援助論V(終末期ケア論)[1] 老年看護援助論I(健康生活援助論)[1] 老年看護援助論II(臨床看護援助論)[1]	小児看護学実習[2] 母性看護学実習[2] 臨床看護学実習I(セルフケア)[2] 臨床看護学実習II(周手術期看護)[3] 臨床看護学実習III(クリティカルケア)[1] 臨床看護学実習IV(リハビリテーション看護)[2]		
	実践展開			リラクゼーション論[1] 医用機器概論[1]	国際看護論[1] 専門看護特論:がん[1] 専門看護特論:感染管理[1] 専門看護特論:WOC[1] 専門看護特論:リエゾン[1] 専門看護特論:ICU/CCU[1] 代替医療論[1] 卒業研究[4]	
	医 学 的 基 礎	入門	体の仕組みと働き(血液・循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)2 体の仕組みと働き(骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)2 栄養学総論[2]	公衆衛生学[2] 医療安全管理学(臨床工学・危機管理)・感染制御学[2]		
		発展 実践	医学・医療概論[1] ボランティア論[1]	臨床薬理学[2] ボランティア活動[1]	医療マネジメント論[1]	
い の ち ・ 人 間 の 教 育	いのち・人間	心理学[1] 医療と人間[2]	生命倫理学[1]	文学[1]	哲学と宗教[2] 協働実践演習[1]	
	社会科学	コミュニケーション概論[2] 社会学[2] 歴史(医療史)[2]	経済学[2] 法学[2] 認知科学[1]	国際関係論[1] 家族社会学[1] 比較文化論[1]	人間関係論[1] ジェンダー論[1]	
	自然科学	生物I[1] データサイエンス統計学[2] 物理学[1] 化学II[1] スポーツ実習[1]	生物II[1] 基礎数学[1] 化学I[1] スポーツ科学[1]			
	外国語	英語読解・記述[2] 英会話I[2] フランス語[2]	英会話II[2]	英会話III[2]	専門英語[2]	
	情報科学	情報リテラシー[2]	情報科学[2]			

専門職とは何かを理解する
セルフマネジメントからトップマネジメントへと段階的に学び、専
門職としてのキャリアの成長をめざします。

国際感覚を身につける
コミュニケーションの道具としての英語をマスター。国際化の進む
医療現場で必要とされる能力を修得します。

情報の本質を学ぶ
看護情報とは何かを理解し、その適切な活用方法を修得。また、看
護師が扱っている情報の真実を認知してもらいます。

チーム医療を実習する
医療実習科目、医療情報学科と共通で学ぶプログラム。さまざまな
専門職の協働をはかるコーディネーター役となれるよう、実践的な
力を身につけます。